

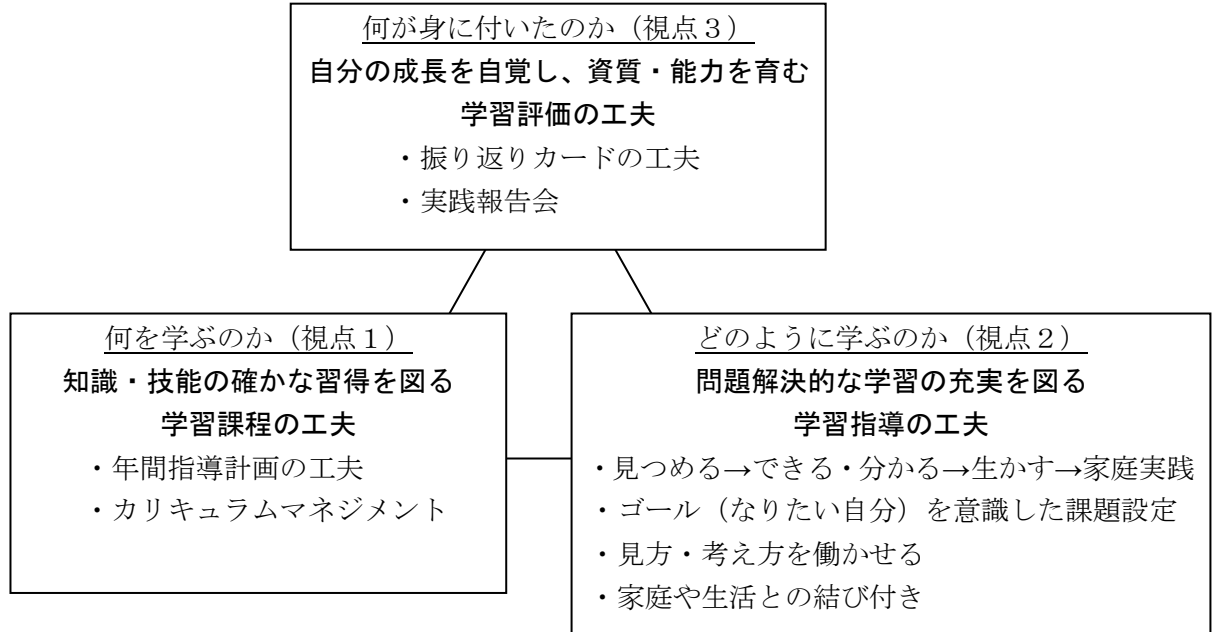
2 第56回 全国小学校家庭科教育研究会全国大会（熊本大会）参加報告

大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」

研究主題「家族や地域の人々と関わりながら、生活をよりよくしようと工夫する子供の育成」

(1) 熊本県の取り組み

- 熊本県の研究構想は、新学習指導要領に沿ったものになっており、各会場がテーマを明確にして取り組んでいた。



- 下記のような学習指導要領で新しくなった内容についての授業が多く公開されていて、参考になった。

公開された授業	「ゆでる、ご飯とみそ汁・・・ ICTを活用した調理計画」
(指導案あり)	「布を使った製作・・・ 大きさの決め方（ゆとり）、製作計画」
	「消費・・・ パフォーマンス評価」
	「課題と実践」 など

(2) 他県の発表で参考になったこと

- 福岡県では、「課題と実践」で家族との関わり、幼児との関わり、高齢者との関わりを年間指導計画に明確に位置付けていた。「1年生との関わり」に関する授業の提案があった。
- 教具の工夫、ICTの活用により、児童のイメージを可視化する取り組みが効果的であった。
- 題材や学習課程を工夫していた。題材を貫く課題をもたせることで主体的な学びの実現に向かっていった。

(3) 丸山調査官からのご指導

- 新学習指導要領では様々な「役割と働き」が大切にされている。
- カリキュラムマネジメントでは、家庭科で行うべきことにしっかり取り組む。
- 評価は学習改善と指導改善の為に行う。主体的な学びについては、粘り強く取り組み続ける姿や自己調整、実践への態度を大切にする（「学習評価の在り方 ハンドブック」をよく読む。）。
- 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」のような冊子は、来年3月にはできる。販売は来年度1学期中になる予定。評価規準をつくる手順が示されているので読んでほしい。示されるのは、内容のまとめりごとの評価規準。内容を組み合わせて題材を構成するので、授業の活動に即した評価規準は授業者が作成する。